

第48回水の作文コンクール 審査評（優秀賞）

賞	題 名 学校名・学年 氏 名	審査評	
地方審査 優秀賞	教室の窓から 志學館中等部 3年 宮脇 愛	学校から見える海、水田の水面の美しさとともに、水難事故や水害などの危険な姿に触れ、その原因は一人一人の日常の過ごし方の結果であると述べている。美しい姿がいつまでも続くようにという願いが美しい描写で表現されている。	水の大切さについて、丁寧な描写を通して、実際に見たことや感じたことがよく伝わる作品である。さらに、伝えたい論点をより明確にし、自分の考えを具体的に深めていくことで、作品全体に一層の深みと説得力が加わると思われる。
地方審査 優秀賞	感謝の気持ちを忘れず 志學館中等部 3年 横山 凜	昨年の豪雨により、住んでいた地域が断水した経験から、水に大切さについて考えた作文である。蛇口をひねればきれいな水が出てくることを奇跡と表現し、水を大切に使うこと、感謝の気持ちをもつことの大切さが述べられている。	昨年、鹿児島を襲った豪雨災害による被災体験を具体的に述べながら、水を「共有の財産」と位置づけた、説得力のある作品である。さらに、水の使い方に関する提案を具体的に記述することで、より具体性の高い作品になると思われる。
地方審査 優秀賞	水を取りまく二つの世界 喜界町立喜界中学校 2年 比嘉 心琴	自身が住んでいる自治体の現状や事業等を調べることで、多くの人の知恵や努力で水を使うことができることを知り、行動としては小さくても、自分ができる節水に取り組もうとする意義と決意が述べられた作文である。	読書体験から生まれた疑問を出発点に、筆者の住む街で水がどのように各家庭に供給されているかを調べ、自身の役割を述べた作品である。探究の流れに沿い、終末は未来につながる一歩を意識した思いが力強くまとめられている。

第47回水の作文コンクール 審査評（入選）

賞	題 名 学校名・学年 氏 名	審査評	
地方審査 入 選	私たちが変われば…… 志學館中等部 3年 海田 恵愛	茶色の水を飲む少年や、一日かけて水くみに行く少女がいること、水道水を飲むことができない国があることを知り、自分の生活を振り返る様子が書かれている。行動を変えるにはきっかけが必要だと述べられている。	丁寧な文体で読み手に語りかけるように、水の大切さを訴えている作品である。経験から考えたことと読み手に伝えたい想いを関連づけ、根拠を明確にして主張を整理することで、より説得力が増すと思われる。
地方審査 入 選	当たり前の裏側にある水 志學館中等部 2年 迫 志柚	「水の惑星」と言われている地球だが、飲み水として実際に使えるのは地球全体のわずか1万分の1にも満たないことを授業で知り、飲み水となるまでの工程や世界の状況について考え、節水や水の大切さを忘れないと述べられている。	水資源の大切さについて、学んだことや映画、論文等を関連付けて考え、壮大な「旅」と比喻しながら論を展開している。課題を明確にして焦点化することで、主題がより一層明確になるとと思われる。
地方審査 入 選	食卓からの節水宣言 鹿児島市立河頭中学校 3年 川井田 彩果	読んだ本に掲載されていた「バーチャルウォーター」の存在を知り、水の問題だけでなく、食品ロス、買い物や外食の際のリテラシーまでが述べられている。「見えない水」の存在という言葉が印象的に残る作文である。	水資源と食品ロスの問題を関連づけ、情報を精査し、日常経験と重ねて論を展開している。論理も明快で自然な流れがあり、私たちにできる行動を現実的に示している。結びもタイトルと響き合い、簡潔で主題が的確に示されている。
地方審査 入 選	未来へつなぐ水 鹿児島市立長田中学校 3年 平崎 咲蕾	本を読むことで、何気なく使っていた水が無限のものではないことに気づくとともに、連日続く猛暑により、水不足になった経験から、自然環境に関心をもち、水を無駄にしないことが重要であると述べられた作文である。	本を通して学んだ内容が丁寧に整理され、分かりやすくまとめられた作品である。また、水を守る意味を未来へ資源をつなぐ視点で捉えている点も評価できる。実体験を交えて考えを深めれば、より説得力のある作品となる。
地方審査 入 選	水の使い方を見直して 薩摩川内市立平成中学校 2年 小園 優衣	私たちの生活に欠かせない水の恵みや安全性について、これまでの生活や世界の現状を踏まえて見つめ直すとともに、将来水不足になる可能性や環境に及ぼす悪影響を鑑み、一人一人が心がけるべきことが丁寧に述べられている。	文章に読みやすさがあり、日常の経験を振り返りつつ水について考えさせられる作品になっている。内容に独自性をもたせることと、論点を絞り、取組の提案に独自の視点を加えることで、より深みのある作品になるとと思われる。